

インフォメイト

Vol.08
November
2015

特集

子宮頸がん検診を受けていますか？

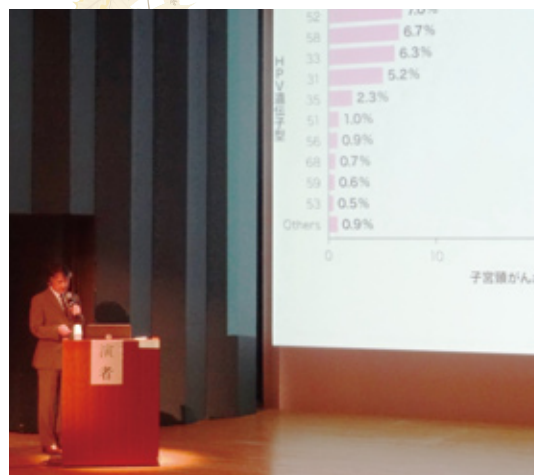
地域医療連携室について

患者図書室「やすらぎの森」へどうぞ

給食の食物アレルギーに対応
アナフィラキシー対応ホットラインを開設

臨床指標(クリニカル・インディケーター)の公開

公立昭和病院 予防健診センター



講演会の様子

最近の新聞にこんな記事が載っていました。「がん死者減2015年までに20% 目標達成困難 検診受診率伸び悩み」国はがん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画で、75歳未満のがん死亡者数(人口10万人当たり)を2005年の92.4人から2015年に73.9人とする目標を定めました。ところがこれまでの実績を推計してみると、76.7人と目標に届かないことが分かったのです。目標を達成するためには、喫煙率を2005年の24.2%から半減させ、20〜30%台だった胃がんや肺がんなど「五大がん」の検診受診率を50%に引き上げることが必要だということも明らかになりました。また女性はずべてのがんで検診受診率が30%台に低迷していることも分かりました。引き続き次のような報道がありました。



子宮頸がん検診を受けていますか？

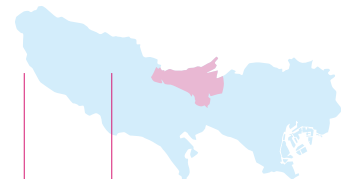
産婦人科部長 武知公博

「肝臓がん死亡率半減2005〜2015年見通し 子宮頸がんは微増」この十年で、「五大がん」の死亡率は肝臓がん47.9%減、胃がん30.8%減、大腸がん9.1%減、肺がん7.5%減、乳がん0.1%減とすべて減少しているにもかかわらず、子宮頸がんのみ5.9%増でした。子宮頸がんは1995〜2005年の間でも3.4%増加しており、増加傾向に一向に歯止めがかかっていなかったのです。

子宮頸がんは我が国では、年間約1万人が罹患し、約3000人が死亡すると言われています。問題は20〜30歳代の若い世代での発症率が高く、そのため30〜40歳代の若年者の死亡数が多いということです。若いお子さんを持つ若いお母さんに増えていることから、マザー・キラーとも呼ばれています。

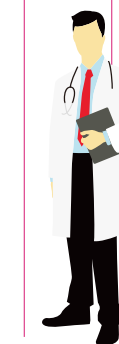
一方、子宮頸がんは、がん検診システムが確立しており、早期発見が可能ながらもあります。早期治療により子宮を摘出せずにはほぼ完治できます。その後の妊娠出産も十分可能です。発がんのメカニズムも分かっています。現在はワクチンにより予防可能な疾患です。

子宮頸がんの主な原因はヒトパピローマウイルスの感染です。ウイルスの感染により、いわゆる前がん状態である異形成を経て、上皮内がん、浸潤がんへと徐々に進んでいくと考えられています。ただし、発がん性のパピローマウイルスに感染して



地域医療連携室だより!

市民公開講座のご案内



当院は地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院として、地域の医療機関と連携しながら各分野の専門家が協力してがんの治療にあたっています。また、患者さんやご家族に対する相談支援や情報提供の役割も担っています。今回は市民公開講座についてご紹介します。

当院は、地域がん診療連携拠点病院の指定に伴い、地域に対するがんの診療・治療に関する普及・啓発事業を目的として、市民公開講座を定期的に開催しております。年に数回、当院または地域の会場をお借りして、当院の各診療科医師またはメデイカルスタッフが、地域の皆様に診断・予防・治療内容等について、最新の情報を分かりやすくお話ししております。



今回は平成28年2月の開催を予定しております。入場は無料でどなたでもご参加いただけます。

【最近開催された講座内容】

- 「女性のガン(子宮がん・卵巣がん)について」
- 「乳がんの診断と治療」 「これからのライフスタイルと生活習慣病について」
- 「前立腺がんについて」 「本当に治療は必要か」
- 「脳卒中の治療と予防について」
- 「大腸がん、と言われたらどう知っておきたいこと、地域で診る大腸がん診療」
- 「がん相談について」
- 「胃がんの外科的治療 全てお話しします」

術前治療から術後の生活まで」

※入場無料、事前申し込み不要です。お気軽にご参加ください。

お問い合わせ先/医事課医事管理係

☎042-461-0052代 内線2171



《公立昭和病院の理念と方針》

【理念】

一人ひとりの命と健康を守り、医療の質の向上に努め、熱意と誇りを持って地域社会に貢献することを目指します

【方針】

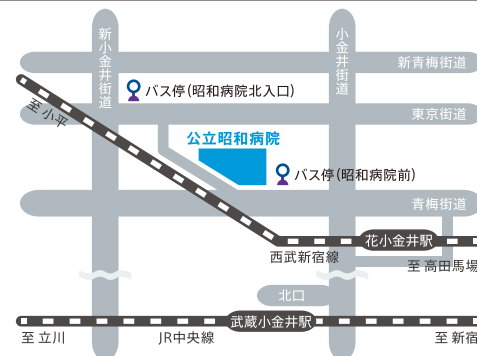
- 1 地域医療支援病院として地域連携を推進します
- 2 科学的根拠に基づいた医療を提供します
- 3 急性期病院として高度専門医療、救急医療を実践します
- 4 がん拠点病院としてがんの予防から治療までを担います
- 5 信頼される優れた医療人を育成します
- 6 健全な病院経営に努めます

当院は、東京都多摩地域の小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、武蔵村山市および西東京市の8市で構成されている昭和病院企業団により運営されています。標榜診療科は全31科。休日・夜間救急医療をはじめ、高度・専門医療、予防医学的業務、地域医療センターとして高い機能を発揮して、地域の医療需要と信頼に応えています。



公立昭和病院

〒187-8510
東京都小平市花小金井8-1-1
tel.042-461-0052
fax.042-464-7912
www.kouritu-showa.jp



●表面のつゞき

も、実際にがん化するのは1000人のうち1〜2人程度です。ですから、子宮頸がん検診の目的は、異形成や上皮内がんのうちに見えて、進行がんへの進行を防ぎ、子宮を可能な限り温存することです。また、子宮頸がん検診は非常に簡単に検査でき、痛みも殆ど伴いません。

このように体への負担がなく早期発見・早期治療に効果的な子宮頸がん検診ですが、困ったことに、日本は欧米に比べ受診率が低く、特に若年者の受診率が低いという重大な問題があります。欧米での受診率は70%以上で90%近い国もありますが、日本ではその半分以下の20〜30%にすぎません。これは非常にもったいないことであ

る、と言わざるを得ません。

子宮頸がん検診については、皆様がお住まいの市から検診のご案内があります。20歳以上の方に2年に1回の検診が推奨されています。無料クーポン券も配布されており、お近くの医療機関を受診していただき、精密検査が必要になった際には公立昭和病院等が対応するというシステムになっています。是非ご利用いただきたいと思います。

【子宮頸がん】
定期的な検診で早期に発見しましょう。
「子宮頸がんで亡くなる女性をゼロに、子宮を失う女性をゼロに」



地域医療連携室について

当院は、がんや救急医療を中心とした高度急性期医療を行う地域の中核病院としての役割を担っており、質の高い医療の提供に日々努めています。この質の高い医療を行うためには、地域の診療所や他病院とお互いに連絡を取り合い、協力し合って患者さんを診療するための医療連携が重要です。

さらに、これから迎える超高齢者社会では「医療」のみならず「看護」「介護」「福祉」という複合的視点から患者さん、特に高齢者のケアを「地域」全体で行うことが必要となります。そのため医療機関だけではなく、地域の介護、福祉、行政などを担当している様々な機関と横断的に情報を交換、共有することが求められています。このような地域の医療機関と各関係機関との横断的な連絡・協力を「医療・介護連携」と言い、患者さんが適切な医療を途切れることなく安心して受けることが出来るよう、やり取りをする際の窓口もしくは橋渡しの役割を果たしているのが「地域医療連携室」です。

予約センターの様子



名、医療連携事務4名、予約センタースタッフが業務にあたり、それぞれの業務についてご紹介いたします。

(1) 医療連携事務および予約センター…地域の医療機関(かかりつけ医)からご紹介の患者さんの受け入れを円滑に行うための業務を担当しています。具体的には紹介患者さんからの予約受け付け、医療機関からの患者さん受け入れに関する連絡・調整、地域医師会等の外部関係機関との連絡、調整、広報活動等を行っています。

(2) 福祉相談…社会福祉の専門的知識を持ったMSWが病状から生ずる心理的・社会的問題を抱えた患者さんやご家族からの様々な相談に応じています。入院治療後、退院に際しては、個々の患者さんの必要に応じて介護・福祉・行政機関等と連携する「退院調整」を行っています。

(3) 医療・看護相談…専任看護師が患者さんから寄せられる様々な相談、例えば初めて病院にかかる際の「何科に受診すればいいのか」といった相談から、退院に際しての「どこ在宅訪問医? 訪問看護?」「ケアマネージャーには?」などの相談、退院支援「まで細やかに対応しています。

また、がんや痛みの相談や人工肛門ケアなど特定の分野については、専門の知識や技術を持った看護師(専門看護師・認定看護師)が療養上の相談にのっています。

今後、国(厚生労働省)では、来るべき超高齢者社会に向け、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される体制を作る計画を進めています。このシステムを実現するためには、今まで以上に医療・介護連携が必要とされることは間違いありません。患者さんが切れ目のない医療や介護その他の必要なサービスを受けることが出来るよう、地域連携に努めたいと考えています。



公立昭和病院 予防健診センター

人間ドック・脳ドック・半日ドック・CTによる大腸検診のご案内

基本料金 ○人間ドック/49,680円 ○半日ドック/37,800円
○脳ドック/81,000円 ○CTによる大腸検診/31,320円

『組織住民の方を対象』に平成26年4月1日より一部の検診事業について受診しやすい体制を構築しました。生活習慣病やがんの予防から治療まで担うことを目的とし予防や健診の機会を新たに提供させていただきます。

- 【対象住民】 小金井市・小平市・東村山市・東久留米市・清瀬市・東大和市・武蔵村山市・西東京市
- 【提供内容】 ●半日ドック/26,460円 ●CTによる大腸検診/21,924円 (人間ドック オプション検査)
- 乳房エコー 視触診/3,780円 ↓1,890円 ●マンモグラフィ 視触診/6,069円 ↓3,034円 ●前立腺がん検査/3,391円 ↓無料 ●ペプシノゲン・血中ヒロリ抗体検査/2,980円 ↓無料 ●血中ヒロリ抗体検査/864円 ↓無料

※対象住民であっても当施設と人間ドックの契約を行っている健康保険組合等の加入者によっては対象外となります。

お問い合わせ・お申し込み ☎042・466・1800 URL: www.kouritu-showa.jp/



患者図書室「やすらぎの森」へどうぞ

当院には、患者さんやご家族に自らの病気や治療に関する理解を深めていただき、安心と自信をもって積極的に治療に参加していただくことを目的とした図書室があります。

そこは、南館2階(総合案内の裏手)にある階段を上ったすぐの場所の日差しが入り込む明るい場所で、ソファと暖炉を備えたくつろぎの空間となっています。閲覧や検索のお手伝いは、ボランティアさんが交代で行っています。

所蔵図書は、病気・治療に関する解説本や食事療法・栄養の本、検査・薬に関する本など約750冊をそろえています。インターネットが使えるパソコンも利用



患者図書室

意していますので、医療情報の検索や医療情報サイトを閲覧できます。また、患者図書室の情報分類に沿って整理したインターネット上の優良サイトURL集「しらべ君」もご利用ください。

そして新たに、食に関するDVDを5タイトル入れました。あわせてご利用ください。

ゆったりと過ごせる雰囲気ですので、外来や検査の待ち時間、入院生活の合間に気軽に立ち寄りください。どなたでもご利用できます。

ご利用案内

場所/公立昭和病院 南館2階
利用時間/月〜金曜日10時〜16時
(土日祝日、年末年始はお休み)

図書の貸し出し

- 当院に入院中の患者さん対象
- 貸出冊数/2冊
- 貸出期間/1週間

※室内での飲食、携帯電話の使用はご遠慮ください。

お問い合わせ先/総務課庶務係
☎042・466・10052(代)
内線2247



給食の食物アレルギーに対応 アナフィラキシー対応ホットラインを開設

当院では、小平市立の小・中学校、小金井市立の小・中学校、東京学芸大学附属小金井小・中学校、西東京市立の小・中学校及び公立保育園、西東京市医師会と連携して学校等における児童・生徒の食物アレルギー1症状などに対応するため、ホットライ



西東京市との調定式の様子



ホットライン説明会の様子

ンを開設しました。強いアレルギー反応で血圧低下や意識障害などの重い症状が現れるアナフィラキシーショックへの対応強化がおもな狙いです。児童生徒に食物アレルギー症状が出た場合、教師らが当院の医師直通の専用電話で、症状の判断や対処、救急搬送の必要性などを相談します。

食物アレルギーの患者さんは年々増加していますので、食物アレルギーの患者さんたちが健康に安全に安心して学校生活を送れるよう、今後も構成市である8市の学校等と協働体制を整えていきます。



臨床指標(クリニカルインディケイター)の公開

医療の質の向上を目指して

臨床指標(クリニカルインディケイター)とは、当院で行われている診療の実績等について、様々な指標を用いて具体的な数値として示したものです。指標を分析して改善を促すことにより、医療の質の向上を図るとともに、患者さんに医療情報を提供することを目的としています。

当院では、計18項目の臨床指標を公開しており、数値については、今後も継続的に更新を図ってまいります。

臨床指標	公開項目一覧
紹介率	逆紹介率
病床利用率	平均在院日数
救急車受入件数	がん登録件数
在宅復帰率	新入院患者紹介率
精神科病院入院からの身体疾患受入れ患者数	地域医療機関サポート率
地域分娩貢献率	転倒転落発生率
褥瘡推定発生率	クリニカルパス使用率(患者数)
クリニカルパス使用率(日数)	肺血栓塞栓症の予防対策実施率
脳梗塞入院1週間以内のリハビリテーション強度	ステージ1乳がん患者の乳房温存率

これらの臨床指標は、当院のホームページに掲載しておりますので、是非ご参照ください。

